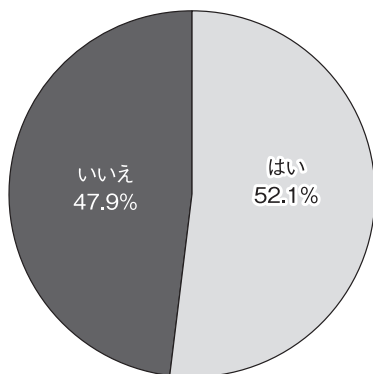


奨学金の必要度と実際

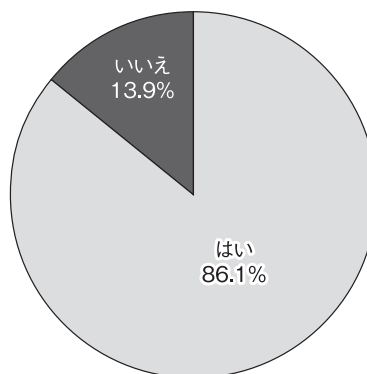
問23-5 自分にとっては“必要”なものである【日本学生支援機構の“貸与型”奨学金】

問24-5 自分にとっては“必要”なものである【本学独自の“給付型”奨学金】

【問23-5】



【問24-5】



【基数：対象者全員】

大学院生のニーズにあった奨学金の充実が求められている

本設問は、『日本学生支援機構の“貸与型”奨学金』及び『本学独自の“給付型”奨学金』について“必要”なものであるかどうかを調査したもので、それぞれ52.1%、86.1%の大学院生が「必要である」と回答しており、特に『本学独自の“給付型”奨学金』については、ほとんどの大学院生が「必要である」と感じていることが窺える。

一方で、問23-1、問24-1（受給状況）の設問でそれぞれの奨学金に関する受給状況を尋ねたところ、『日本学生支援機構の“貸与型”奨学金』で42.5%、『本学独自の“給付型”奨学金』で61.8%の大学院生が「受けている（受けたことがある）」と回答していた。

これらのことから読み取れることは、それぞれの奨学金において「必要ではあるが、受けることができなかった」大学院生が生じているということであり、とりわけ『本学独自の“給付型”奨学金』については、奨学金を「必要としている」大学院生の割合と、実際にこれを「受けている（受けたことがある）」大学院生の割合とでは大きな差が見られ、大学院生のニーズに合った奨学金の充実について、今後さらに検討していく必要があると思われる。